

すすめよう！男女共同参画

問合せ先

役場企画課企画調整係
(内線212)

◆男女共同参画の視点からの防災対策

東日本大震災においては、避難所によっては女性用品が不足したり、授乳スペースが無かったり、女性の要望や意見がとりにくいなど、さまざまな問題が見られました。地域には、高齢者、障がいのある人、妊産婦、乳幼児をはじめ、性別や年齢、生活習慣などが異なるさまざまな人が暮らしているため、防災対策を実施するにあたっては、男女共同参画の視点で考えることがとても重要です。

多様な意見が反映されるよう、避難所運営の責任者には男女両方が参画することや、授乳スペース、育児スペース、女性専用の更衣室や物干し場などの確保も必要となります。そして、女性用品は受け取りやすいように女性の担当者から配付するなどの配慮や、食事の準備や片付け、清掃などの役割分担は、男女を問わずできる人

が担当し、性別や年齢によって役割を固定化しないことが大切です。

さらに、災害現場や避難所生活においては、性犯罪、配偶者間暴力や子どもへの虐待も懸念されます。これらを予防するため、昼夜を問わず安心して利用できる安全な環境の整備が必要となります。

◆日頃からの取り組みを

災害時には、平常時における社会の課題がより一層顕著になって現れます。災害時でも男女がそれぞれの力を発揮するためには、日頃から家庭、職場や地域において男女共同参画を実践することが重要です。地域のコミュニティ活動においては、女性も主体的に地域のリーダーとしての役割を担い、多様な視点を取り入れて、男女が互いに支え合う地域づくりに努めましょう。